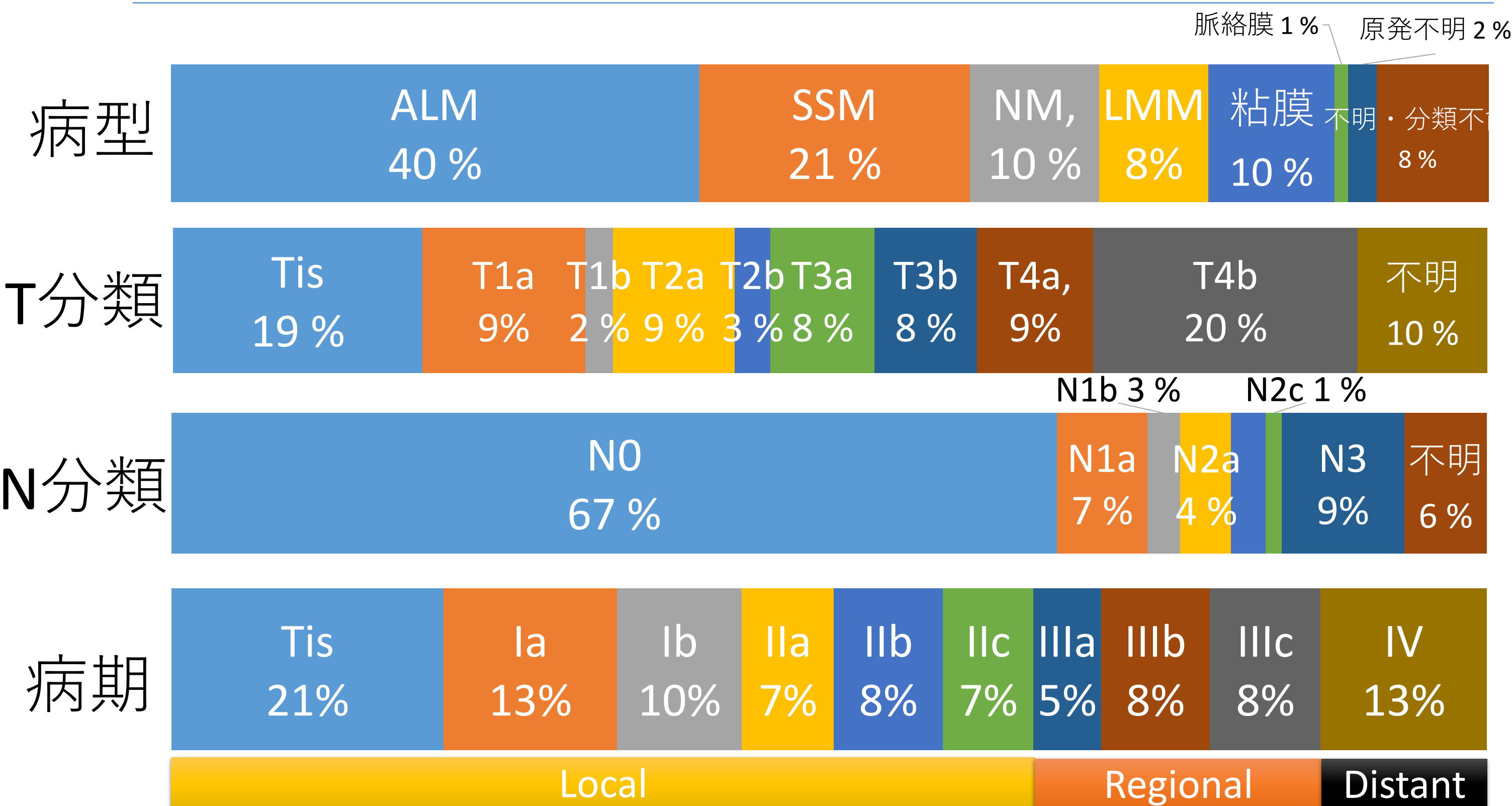


# Japanese Melanoma Study: Annual Report 2016

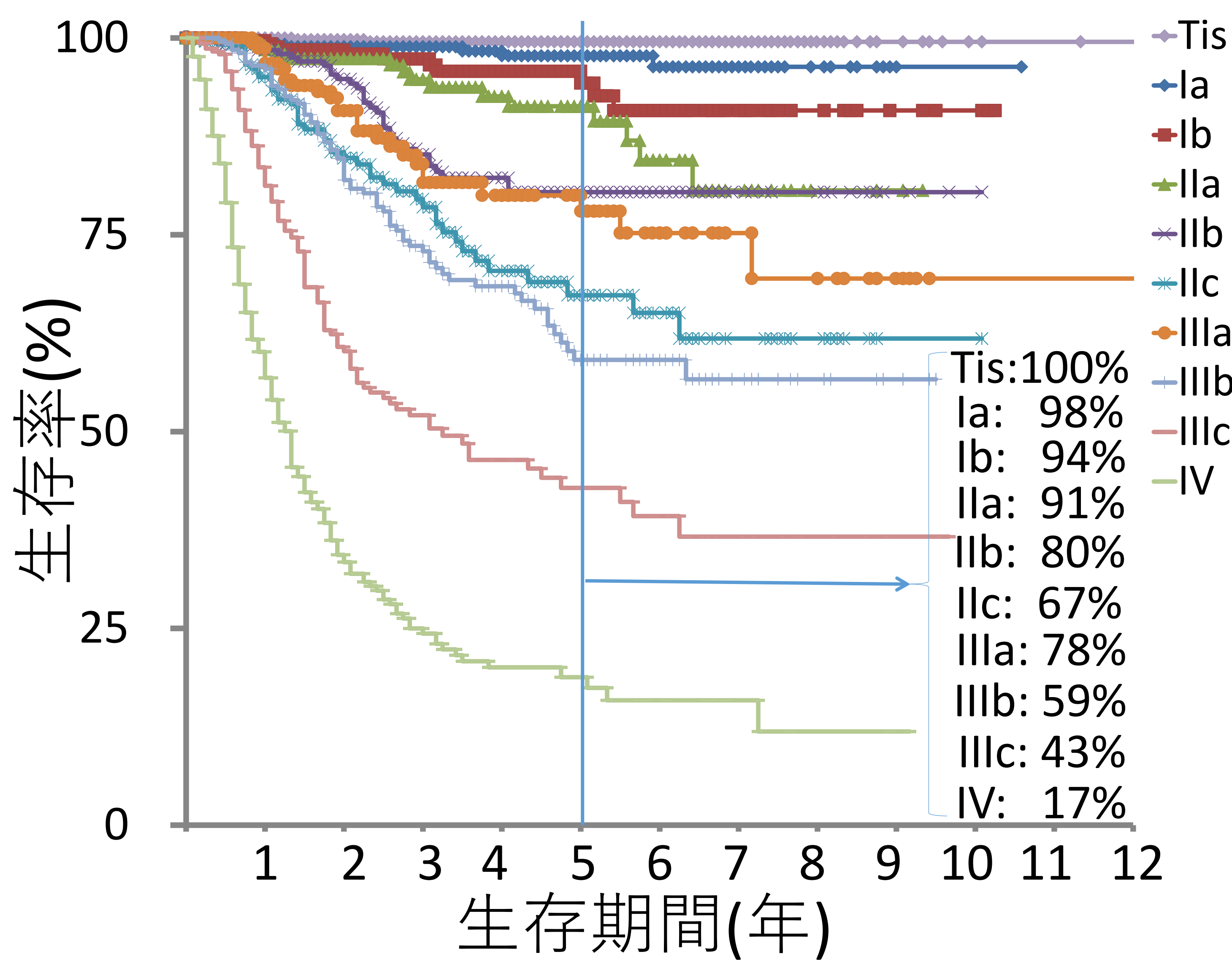
皮膚悪性腫瘍学会皮膚がん予後統計委員会担当委員：藤澤 康弘（筑波大学）

総症例数：4239症例

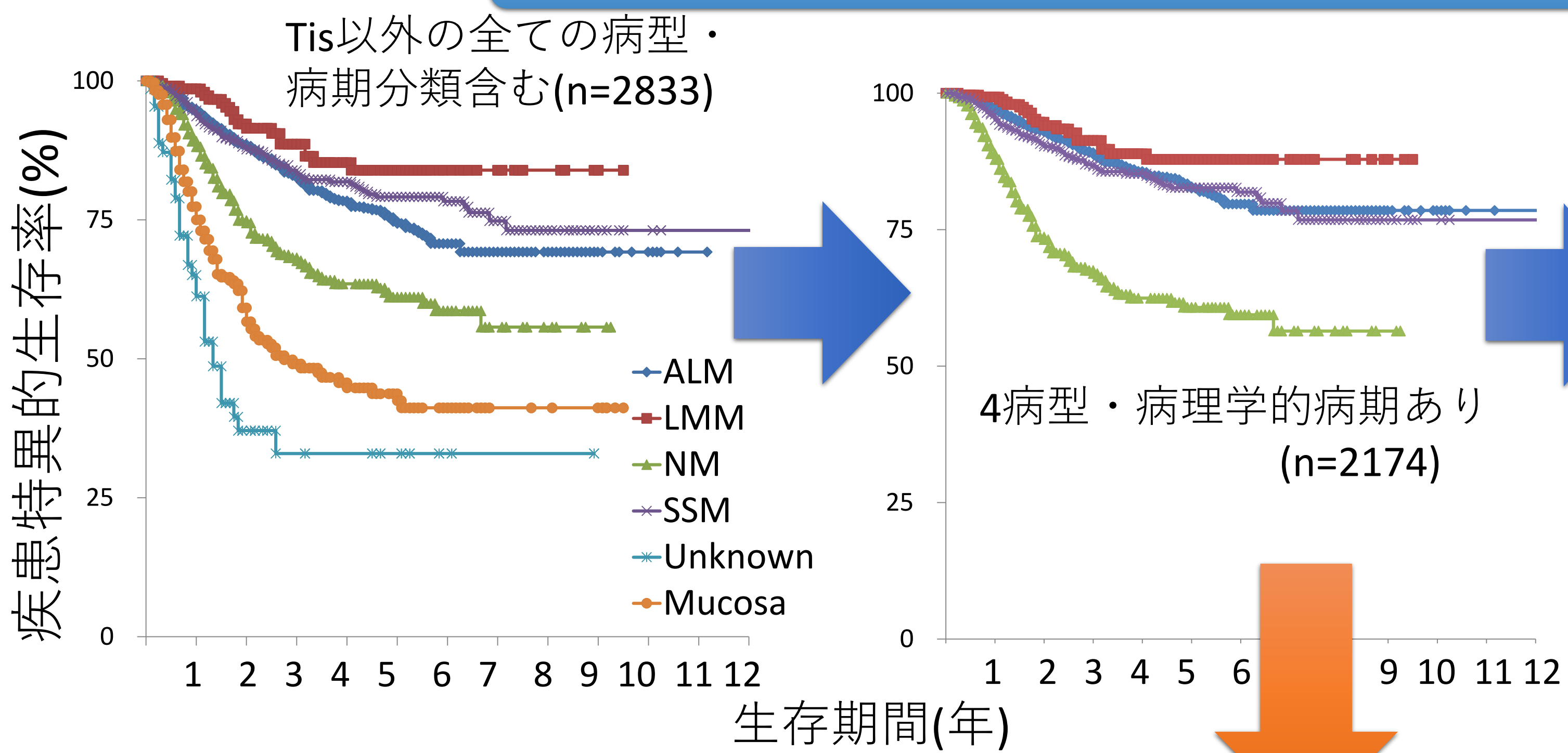
年齢		受診までの期間	
平均	64.0歳	平均	69.9ヶ月
中央値	66.0歳	中央値	24.0ヶ月
性別		他腫瘍あり	
男性	1,949例	他腫瘍あり	333例
性別		家族歴あり	
女性	2,287例	家族歴あり	96例



## 疾患特異的生存率 (数字は5年生存率)

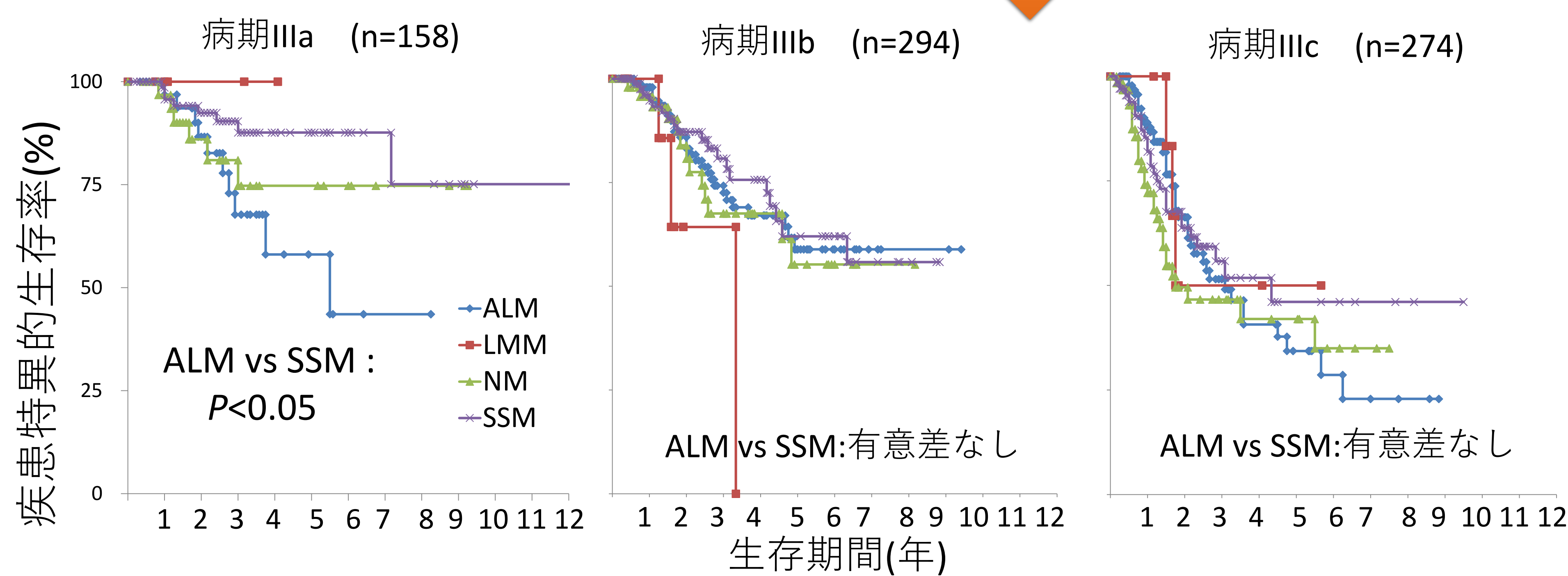


## 病型で予後に違いがあるのか



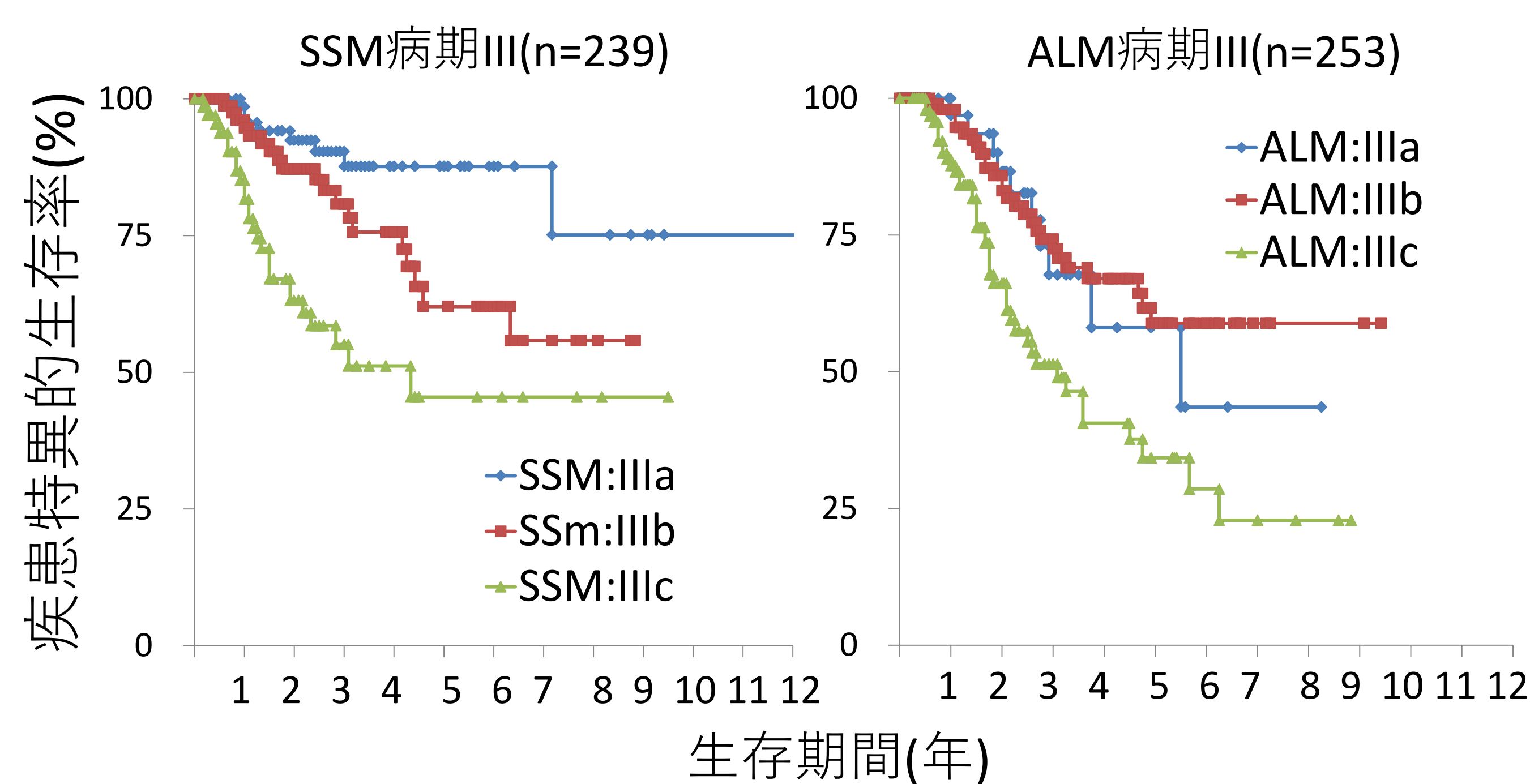
因子	ハザード比	95%信頼区間	P値
臨床病型 (基準カテゴリ:SSM)			
ALM	1.043	0.800~1.359	0.755
NM	1.282	0.951~1.727	0.103
LMM	1.041	0.638~1.697	0.871
T分類(1~4,連続変数)	1.857	1.646~2.095	<0.0001
N分類(0~3,連続変数)	1.282	1.511~1.845	<0.0001
M分類(0 or 1)	3.350	2.484~4.516	<0.0001

TNMと予後は相関するが、病型と相関はなし



病期IIIaにおける多変量解析			
因子	ハザード比	95%信頼区間	P値
臨床病型 (基準カテゴリ:SSM)			
ALM	2.974	1.126~7.854	0.0278
NM	1.197	0.398~3.592	0.748
LMM	-	-	-
T分類(1~4,連続変数)	1.816	1.118~2.950	0.016
N分類(0~3,連続変数)	1.496	0.656~3.415	0.338

病期IIIaではALMとDSSが相関



### なぜALMのIIIaはSSMと比較してDSSが悪いのか？

- \* 症例背景は同等（年齢，性別など）
- \* T1a:T2a比はほぼ同じ，平均Breslow's thicknessも2.59と2.62mm
- \* N1a:2a比は1:0.41 vs 1:0.69とN2aの割合がALMで高い  
> カイ2乗検定ではP=0.21と有意差なし，多変量解析でもIIIaでは予後とN分類との相関はみられず（上記表参照）

\* トータルで見るとALMとSSMの予後は変わらない  
> 病型ではなく，TNMそれぞれが独立した予後因子

\* 病期IIIaのみALMの予後がSSMより不良 > 要因は不明

### 研究協力施設 (26施設)

新潟県立がんセンター	286症例	竹之内 辰也 先生	大阪市立大学	212症例	加茂 理英 先生
神戸大学	161症例	藤原 進 先生	筑波大学	174症例	藤澤 康弘 先生
静岡がんセンター	476症例	清原 祥夫 先生・吉川 周佐 先生	東京大学	40症例	山田 大資 先生
国立がんセンター	173症例	山崎 直也先生・並川 健二郎 先生	東北大学	102症例	藤村 卓 先生
埼玉医科大学医学部附属病院	90症例	緒方 大 先生	日本医科大学	124症例	帆足 俊彦 先生
埼玉医科大学国際医療センター	202症例	中村 泰大 先生・寺本 由紀子 先生	浜松医科大学	51症例	藤山 俊晴 先生
埼玉県立がんセンター	55症例	石川 雅士 先生	富山県立中央病院	57症例	八田 尚人 先生
札幌医科大学	220症例	宇原 久 先生・加藤 潤史 先生	福岡大学	57症例	柴山 慶継 先生
産業医科大学	67症例	日野 亮介 先生	北海道大学	61症例	古川 洋志 先生
信州大学	375症例	皆川 茜 先生	名古屋大学	280症例	横田 憲二 先生・浦田 透 先生
旭川医科大学	164症例	上原 治朗 先生			
岐阜大学	80症例	松山 かな子 先生			
京都府立医科大学	220症例	浅井 純 先生			
九州大学	244症例	内 博史 先生			
熊本大学	214症例	尹 浩信 先生・福島 聡 先生			
虎の門病院	56症例	岸 晶子 先生			